

待望の八木沢トンネル 3月18日開通が決定



石ポロ坂トンネルを原町方面に抜けると間もなく入り口が見えてきます。道路舗装も真新しく

村と南相馬市原町区を結ぶ県道原町川俣線の八木沢トンネル(延長2345m)は、平成25年に着工した工事が順調に進み、今月、3月18日に開通することが決定しました。これは2月7日に県が発表したもので、当初の予定より約4か月の前倒しです。カーブや急勾配が続く八木沢峠は、特に冬季は交通の難所となっていて、近隣住民にとっては待望の開通です。村側の入り口には、飯館中学校の生徒が揮毫した銘板も、取り付けられています。



入賞した写真
(平成29年6月号掲載)

県の広報コンクールで 賞をいただきました

県の広報コンクールで、広報紙と掲載写真が、共に佳作に選ばれました。

広報紙は「町村の部」24点の応募から5点、写真は「1枚写真の部」36点の応募から5点が入賞作品となっています。

表彰式は、2月16日に、県庁で行われました。取材を受けてくださる皆さんのおかげで発行できる広報紙。これは村民の皆さんと一緒にいただいた賞です。これからも皆さんの元気を発信していきますので、ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。



入賞した広報紙
(平成29年9月号)

手から手へ「裁縫教室」で 愛らしい人形づくりに挑戦

瀧本和子さん(前田・八和木)を講師に迎え、交流センター「ふれ愛館」で、「裁縫教室」が開かれました。題材は、ウサギやお地蔵さまをモチーフにした、高さおよそ12cmの布製人形です。1月17日の第1回、同27日の第2回、合わせて20人余りが参加しました。瀧本さんはさまざまな手芸作品を手掛けていて、オリジナルのデザインにも定評があります。初心者にも作りやすい裁断済みのキットも好評で、参加者は「もっと作ってみたい」「作ると愛着がわきますね」と話していました。



心をこめた作品作り。きれいに仕上げるコツを講師の瀧本さん(右端)がいてねいに伝授しました

田中俊一さん(上飯樋)に 村復興アドバイザーを委嘱

村は、1月29日、原子力規制委員会前委員長の田中俊一さんに、飯館村復興アドバイザーを委嘱しました。田中さんは、福島生まれの工学博士。震災後は、村の除染アドバイザーとしても協力をいただきました。昨年9月に原子力規制委員長を退任し、「福島の復興の一助になりたい」と、村内に居を構えました。月の半分ずつを、茨城県内の自宅と、村の居宅とで、生活していく予定です。田中さんは、「村の要望、村民一人ひとりの要望に、できるだけのことをしたい」と話していました。



委嘱状は菅野村長(右)から田中さんに手渡されました。任期は平成32年3月31日までです

ふるさと納税返礼品 村産第1号は「里山のつぶ」

全国から協力をいただいていた、ふるさと納税の返礼品に、村産品が初登場しました。平成29年に生産されたお米「里山のつぶ」5kgで、アニメ「アイドルタイムプリパラ」のキャラクター・夢川ゆいのパッケージを使った限定品です。夢川ゆいは、JA全農のお米応援大使。「いいいて村の道の駅までい館」で撮影会を開いたり、「新春村民のつどい」に参加したり、村の復興も応援しています。2月下旬から、オリジナルポストカードなどを付けて、お米の発送が始まりました。



© T-ARTS / syn Sophia / テレビ東京 / IPP製作委員会

村産返礼品の第1号はお米。JA全農のお米応援大使・夢川ゆいをパッケージにした限定品です

相馬福島道路 霊山飯館ICが3月開通

2月2日、国土交通省福島河川国道事務所が、「3月10日に相馬福島道路の相馬玉野IC～霊山IC間を開通する」と発表しました。相馬市と福島市を結ぶ相馬福島道路は、相馬山上IC～相馬玉野IC間が開通済みで、今回開通するのは、これと接続する区間です。新たに開通する区間には、「霊山飯館IC」があり、開通に合わせて利用が開始されます。菅野村長は、「インターチェンジの名称に飯館の文字が入り、復興にはずみがつく」とし、関係各所に感謝を表しました。



霊山飯館ICは福島方面に向かう車線の出入口。相馬方面に向かう車線に乗る場合は隣接のICから